



今月の江戸しぐさ「失せ物さがし」 11月

日本人は整理整頓が苦手な民族だといわれています。

例えばある調査で、自分が一番自信を持っていることは何かと聞かれてフランス人女性の場合、1位が整理整頓（39%）と答えています。

日本では整理整頓をあげた人は殆どいませんでした。

これは、本来質素な生活をしてきた民族が、明治維新後の急激な欧米化と、何でも取り込んでしまう柔軟な国民性によって物があふれるようになったのも一つの原因だと思います。

例えば、他の国の主婦は伝統的な食事しか基本的に作りませんが、日本の主婦は和食、洋食、中華、はてはエスニック等さまざまな物を作りますのでキッチン用具、材料が非常に多くなります。また世界で出版される本の70%は日本のものです。日本は物があふれている国とついでいい状態で、このことが物を管理する計画性を薄れさせている可能性があります。

気持ちのよい生活はまず整理整頓が大切です。

病院でも、物品の管理が大切です。必要な時に必要な物品がすぐに出てこないと患者に不利益をもたらすからです。まず、包交車の管理をよろしくお願いいたします。

※江戸思草は、江戸時代の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。

判断の基準は粋かどうかだったようです。

粋の概念は武士の武士道に対抗するものだったという説があります。他の国にない、一般庶民の高度な精神性が、当時日本に来た外国人に驚きをあたえていたことが多数記録されています。



松竹梅

ヘレン・ハイド

Helen Hyde(1868~1919)

日本を愛したアメリカ人版画家。

江戸の風情が強く残っていた明治期に10年以上滞在し、女性の視点から愛らしい子供の作品をたくさん残してくれました。

当時の外国の観察者の多くが、西洋諸国と子供の様子や子育ての考え方が根本的に異なっていることに驚いていました。

